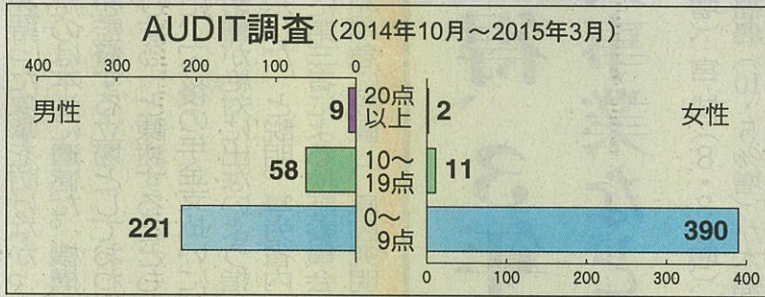


75%がアルコール要因



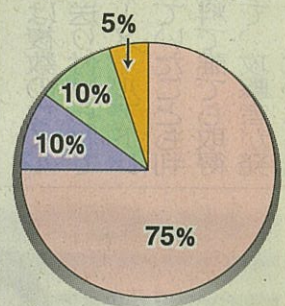
AUDITスコアの解釈

AUDITスコア	判定	対応
0～9	問題飲酒ではないと思われる	普及啓発(適正飲酒・酒害等)
10～19	問題飲酒ではあるが、アルコール依存症までは至っていない	減酒支援
20～	アルコール依存症が疑われる	相談機関につなげる

岸本院長は「宮古島の飲酒と生活習慣病」のテーマ

宮古病院における成因別肝硬変

宮古病院における肝硬変の成因別グラフ (2011年4月～10月)



同調査の結果と考察では、オトリーは問題飲酒者の増加との関連性があることを示唆し、オトリーをする群は、しない群に比べて肥満や血圧、肝機能、脂質、血糖値異常を有する割合が高い▽オトリーをする群は5個以上

岸本院長は「宮古島の飲酒と生活習慣病」のテーマで講話。宮古地域のアルコール関連問題の現状として、健康問題や飲酒運転、DVなどが県平均と比べて悪い数値が示されていることなどを報告した。

同調査の結果と考察では、オトリーは問題飲酒者の増加との関連性があることを示唆し、オトリーをする群は、しない群に比べて肥満や血圧、肝機能、脂質、血糖値異常を有する割合が高い▽オトリーをする群は5個以上

オトリー文化をはじめ「酒社会」と称される宮古。それを改めて示す数値がこのほど行われた「第14回島のコロナ健康講座」の中で発表された。講師の「きしもと内科医院」の岸本邦弘院長によると、宮古病院における肝硬変の成因別(2011年4～10月)では、75%がアルコールを要因としていたことが示された。この数値は、沖縄県の40・9%、全国の13・6%を大きく上回っている。講話で岸本院長は、宮古の酒文化の象徴でもある「オトリー」が健康に及ぼす危険性も指摘し、お酒との正しい付き合い方を呼び掛けた。(8面にAUDIT調査内容)

地区医師会が実態調査

オトリーの問題点も指摘

受診した20歳以上の患者691人にAUDIT調査(アルコール使用障害特定テスト)を実施した。AUDITスコア10点以上は問題飲酒者(アルコール依存症との密接な関連がある)とされ、宮古地区は男女とも他地域と比較して高い点数の割合が多いことが示された。

上の多重疾患に罹患(りかん)する危険性がある。最後に岸本院長は、お酒に対する意識やその飲み方が、自らの健康や社会全体にも大きな影響を及ぼしていることを訴えた上で、体に書けないようにお酒と正しく付き合いながらも、正しい飲酒習慣の構築を呼び掛けた。

◇◇◇
AUDIT アルコール使用障害特定テストの略語で、問題飲酒の早期発見のためにWHO(世界保健機関)が作成したスクリーニングテスト。10項目の自記式テストで、各項目の回答に従って0～4点の点数が付与され問題飲酒の検出や見える化に活用されている。